

発達支援論コースの紹介

オープンキャンパス
神戸大学発達科学部
2008・08・08

発達支援論コースとは

- 世の中には、わたしたちの人としての発達に影響を与えるさまざまな問題点があり、それを解決しようとしている現場（行政・NPO・学校・地域活動など）に深くかかわり、人を支援するとはどういうことなのかを「実践的」「理論的」に学べるコースです。
- 実践と理論との関係に関心がある人、体験活動・支援活動や企画・運営が好きな人、今日的課題の解決に挑戦したい人に向いています。
- このコースは次の「HCセンター」6部門（6人の教員）で組織されています。

6部門の紹介 (1)

- ◎ 川畑徹朗（かわばた てつろう）
- ◎ ヘルスプロモーション部門
- ◎ 人々、特に青少年が健康を損なう恐れの高い行動を避け、健康を増進する行動を主体的に選択できるように支援する方法を研究しています。つまり、健康教育と生活習慣・生活環境づくりに関する研究部門です。

6部門の紹介 (1)

- ◎ヘルスプロモーション部門
- ◎主なフィールドと研究内容：全国の小中高校における「健康教育」。特に喫煙・薬物・飲酒といった危険行動を防止し、ライフスキル獲得を目指している教員むけの教育プログラム開発し、JKYB研究会を中心に、それを全国に広めています。
- ◎最近の研究業績：青少年のセルフセスティームと喫煙、飲酒、薬物乱用行動との関係『学校保健研究』 **2005年 4**

6部門の紹介 (2)

- ◎伊藤 篤 (いとう あつし)
- ◎子ども・家庭支援部門
- ◎主に家庭の養育活動を支援することをおして、周産期から青年期までの子どもと親の発達を促進するための研究をおこなう部門です。

6部門の紹介 (2)

- ◎ 子ども・家庭支援部門
- ◎ 主な研究フィールドと研究内容：神戸市灘区役所旧庁舎における大学サテライト施設「あーち」において、子育て支援に関する地域連携のあり方を研究し、モデル提示しています。
- ◎ 最近の研究業績：地域連携にもとづく次世代育成プロジェクト「赤ちゃんふれあい体験」の短期的効果に関する研究 『保健の科学』 2007年 49巻1号

6部門の紹介 (3)

- 津田英二 (つだ えいじ)
- 障害共生支援部門
- すべての人が地域から排除されずに生活することができる社会づくりのための方法を「知的障害」に焦点をあてて探究する部門です。

6部門の紹介 (3)

- ◎ 障害共生支援部門
- ◎ 主な研究フィールドと研究内容：サテライト施設「あーち」、学内の「アゴラ」「みのり」、学外の学童保育所「つむぎ」などをフィールドとして、多様な人々たちのかかわりを生み出す学びや人としての成長・発達などに焦点をあてて研究しています。
- ◎ 最近の研究業績：『知的障害のある成人の学習支援論』学文社 **2006年**

6部門の紹介 (4)

- 松岡廣路 (まつおか こうじ)
- ボランティア社会・学習支援部門
- ボランティア活動を人間形成やコミュニティ形成の場ととらえ、その機能を明らかにするとともに、実際にNPOやボランティア団体と連携しながらボランティア活動の支援方法を検討する部門です。

6部門の紹介 (4)

- ◎ ボランティア社会・学習支援部門
- ◎ 主な研究フィールドと研究内容：ESD
ボランティア塾「ぼらばん」を中心的
なフィールドとして、高校生や大学生な
どの若者の社会的学びのプロセスと意義
について研究しています。
- ◎ 最近の研究業績：『生涯学習論の探求』
学文社 **2006年**

6部門の紹介 (5)

- 末本 誠 (すえもと まこと)
- 労働・成人教育支援部門
- 地域や職場でおこなわれている社会教育や成人教育に関する教育と研究をおこないます。具体的には、多様な現場で住民や成人の学習を支援する職員と共同して、課題を集約し、その実践的・理論的研究をおこなう部門です。

6部門の紹介 (5)

- ◎ 労働・成人教育支援部門
- ◎ 主な研究フィールドと研究内容：豊岡市の「コウノトリ育む農法」や兵庫県竜野農業改良普及センター「知る場カレッジ」への支援のほか、沖縄県やフランスでのライフストーリー研究などを通して成人教育のあり方を研究しています。
- ◎ 最近の研究業績：『フランスの生涯教育の新展開』 ミネルヴァ書房 **2007年**

6部門の紹介 (6)

- ◎ 朴木佳緒留（ほうのき かおる）
- ◎ ジェンダー研究・学習支援部門
- ◎ ジェンダー問題に関する学習プログラムを、NPO・企業・個人と共同して開発します。また、子どもから大人までを対象として、女性のキャリア発達を支えるプログラムやその評価法を開発したり、キャリア発達の支援者養成をおこなう部門です。

6部門の紹介 (6)

- ◎ ジェンダー研究・学習支援部門
- ◎ 主な研究フィールドと研究内容：学内「男女共同参画室」室長や伊丹市男女共同参画施策市民オンブードとして、各種の参加型のプログラム開発や「男女平等の職場づくり」や「大学でのメンター制度・メンターマインド」の研究をおこなっています。
- ◎ 最近の研究業績：『福祉国家とジェンダー』明石書店 2004年

発達支援論コースに入るまで

- ◎ 1年次に「発達科学への招待（前期・必修）」「総合科目Ⅱ（ESDの基礎 後期・選択）」などで、HCセンター（発達支援論コース）の教員の授業を聴いたり、そのフィールドにかかわったりする。
- ◎ 2年次に「発達支援論研究A（前期）」または「発達支援論研究B（後期）」のいずれかを取得する。フィールド実践あり。**12**月中旬に申し込み。1月中旬にコース所属（ゼミ）決定。
- ◎ コース移動条件とコース所属後の卒業要件については別紙参照のこと。